



あのとぎの常呂・写真館

VOL 122

(1987年)

昭和62年2月1日

土佐区住民さよなら湧網線記念乗車

▶昭和62年3月19日に廃止を迎えるひと月ほど前の2月1日、土佐地区の住民が地域を挙げて湧網線の記念乗車をしました。土佐地区と湧網線のつながり、湧網線記念乗車の感慨、湧網線にまつわる思い出を「郷土ところ」(常呂町郷土研究同好会発行) No.46に綴っているので次ページに掲載します。



常呂駅前での湧網線乗車記念写真

- * 右：昭和31年設置の土佐仮乗降場
後ろは住民が建てた待合室
- * 土佐仮乗降場は、国鉄営業体制近代化に伴い、昭和47年2月8日廃止
(『土佐郷土史』の記述は間違い)



乗車列車全行程

湧網線・記念乗車

心に残る記念乗車

土佐郷土調査委員会

『土佐郷土史』（昭和49年発刊）によれば、昭和28年湧網線が全線開通し、昭和31年1月ディーゼルカー（レールバス）が運行されるようになり、常呂築港、富丘、土佐の3か所に中間乗降場が設けられることになった。昭和31年に、現在の土佐公民館そば（4号南側）に、土佐乗降場が設置され、昭和46年、同乗降場が廃止されるまでの15年間は、特に土佐区民の一般乗降、通学の足として広く利用されてきました。部落では早速、乗降場に待合所を設けたが、鉄道敷地内に無断で施設をしたため、国鉄当局から注意を受ける一幕もあったとある。

土佐区では、消え行く湧網線に別れを告げようと、2月1日（日曜日）、土佐だけの増結貸切り列車に、区の老若男女80余名が参加し、記念乗車を行いました。

区民の耕作地が富丘付近にあるのと、車内から土佐の風景を見ようと、往路浜佐呂間－網走、復路網走－常呂間を乗車しました。車中では、懐かしさと昔を思いおこし、妻や幼い子供を残して出兵して行かなければならなかったつらく淋しい思いや、現役を志願した人の話では、常呂の鉄橋に列車がさしかかった時に橋のたもとで手を振る恋人の姿になんとも言えないせつなく胸のつまる思い出、また湧網線に乗り、土佐に嫁に来た人達や、懐かしい知人との再会など、楽しい思いで話など、現在では理解しがたい話があちこちで聞かれました。

帰りの列車の中では、湧網線にちなんだクイズや福引きが行われ、



常呂駅ホームでは、駅の最後を見守る助役さんに、土佐区長より花束と土佐産の馬鈴薯を贈り、また駅からも車中でどうぞと、みかんと、湧網線の思い出が永遠に残るようにと、記念の額を戴きました。これは土佐公民館に保存することになりました。区民全員が、駅前に並び記念写真を撮り、常呂-網走間の乗車券を、湧網線廃止の思い出として、各戸に渡されました。参加した人達の中には、親子三代の家族も見られ、それぞれの胸中には、常呂駅がなくなる寂しさを隠せないものがあつたようです。そしてこの記念乗車は、いつまでも区民の心に深く残ることでしょう。

.....



